

ルーマニア月報

2025 年 5 月号

本月報はルーマニアの報道等をもとに、
日本大使館がとりまとめたものです。

令和 7 年 6 月 13 日
在ルーマニア日本国大使館作成

主要ニュース

【内政】

- 5 月 5 日、チョラク首相が辞意を表明。6 日、首相代行にプレドイウ（Marian Catalin Predoiu）副首相を任命する大統領令に署名。
- 5 月 18 日、大統領選挙決選投票が行われ、ダン・ブカレスト市長がシミオン AUR（ルーマニア人統一同盟）党首に勝利。
- 5 月 26 日、上下両院合同会議において大統領宣誓式が行われ、ダン大統領が就任。

【経済】

- 5 月 13 日、EBRD は、2025 年のルーマニア経済の成長に関する予測を 2 月時の 1.8%から下方修正し、1.6%とした。
- 5 月 19 日、欧州委員会は、ルーマニアの 2025 年の経済成長率見通しを、2024 年 11 月時点の 2.5%から 1.4%に引き下げた。
- 5 月 7 日、Newsweek ルーマニア語版は、日本のタイヤ大手ヨコハマタイヤが、米国とチェコ共和国の 2 つのオフロードタイヤ工場を閉鎖し、ルーマニアのドロベタ・トゥルヌ・セヴェリンに進出する旨報道した。

【外交】

- 5 月 22 日、ダン次期大統領（当時）は、ブカレストで開催された黒海・バルカン安全保障フォーラム 2025 で、ルーマニアの外交政策の方向性について対談。

【防衛・安全保障】

- 5 月 5 日から 23 日、NATO 多国籍演習「DACIAN SPRING 2025（DASP25）」の実施。
- 5 月 22 日、2 機の F-16 戦闘機がノルウェーから到着。第 57 空軍基地（ミハイル・コガルニチュアース）の 571 戦闘航空隊に配備される予定。
- 5 月 23 日から 24 日にかけて、シンクタンク「新戦略センター」主催、国防省後援により、第 9 回黒海バルカン安全保障フォーラムが開催され、日本からは国際問題研究所の吉田所長がパネリストとして参加。

【我が国との関係】

- 5 月 9 日、片江大使は、クルージュ・ナポカ市の NTT データ・ルーマニアで開催された「ルーマニア・日本協力センター」の開所式に参加。
- 5 月 20 日、岩屋外務大臣は記者会見で「今後、正式に大統領に就任する見込みの当選されたダン候補との間を含め、引き続き、価値や原則を共有するパートナーであるルーマニアとの間で、二国間関係の強化、国際場裡における連携強化について取り組んでいきたいと考えております」と発言。
- 5 月 22 日、片江大使は、国立農民博物館で開催されたロディカ・フレンツィウ・バベシュ・ボイ大学東アジア言語文学科長による書道の個展「Caligrafia japoneză în memoria clipei」のオープニングに出席。

内政

● やり直し大統領選挙第一回投票結果

- 5月4日、(昨年11月実施され、その後無効とされたためやり直しとなった) 当国大統領選挙第一回投票が行われたところ、開票結果(開票率 100%) は以下のとおり。シミオン候補(ルーマニア人統一同盟(AUR))とダン候補(ブカレスト市長、無所属)が5月18日に行われる決選投票に進出。
 - ✧ シミオン(George Simion) 下院議員(AUR) 40.96%
 - ✧ ダン(Nicusor Dan) ブカレスト市長(無所属) 20.99%
 - ✧ アントネスク(Crin Antonescu) 元大統領代行・元上院議長(PSD-PNL-UDMR 統一候補) 20.07%
 - ✧ ポンタ(Victor Ponta) 元首相(無所属(PSD から除籍)) 13.04%
 - ✧ ラスコニ(Elena Lasconi) クンプルング市長(USR) 2.68%
 - ✧ その他の候補(6名合計) 2.26%
- 投票率は 53.21%(全投票総数は 9,571,740 票)。無効とされた前回選挙(52.55%)よりも微増(全投票総数は前回より約 11 万票増加)。今回、国内投票数は約 4.5 万票(44,943 票)減少したものの、海外投票者が約 15 万票も大幅に増加したため、国内投票の減少分を相殺し、全体としての投票総数が増加。全投票数に占める在外投票数は約 10%。

● チョラク首相の辞任

- 5月5日、ボロジャン暫定大統領はコトロチェニ宮殿でチョラク首相に面会し、同首相から首相職の辞表が提出された。
- 憲法の規定に基づき、ボロジャン暫定大統領はチョラク首相の辞任を受理し、5月6日、ルーマニア政府の首相職が空席となったことを定める大統領令に署名した。
- 同時に、ボロジャン暫定大統領は、新内閣の成立まで首相の職務を代行する首相代行(内相代行も兼務)にマリアン・カタリン・ブレドイウ(Marian Catalin Predoiu) 副首相(内相兼務)を任命する大統領令に署名した。

● 大統領選挙決選投票

- 5月18日、(昨年11月に実施され、その後無効とされたためやり直しとなった) 当国大統領選挙決選投票が行われたところ、暫定開票結果(開票率 100%) は以下のとおり。
 - ✧ ダン(Nicusor Dan) ブカレスト市長(無所属(元ルーマニア救国同盟(USR))、中道右派) : 53.60%(6,168,642 票)
 - ✧ シミオン(George Simion) 下院議員(ルーマニア人統一同盟(AUR)、極右) : 46.40%(5,339,053 票)
- 投票総数は 11,641,866 票で、そのうち有効投票数は 11,507,695 票。投票率は 64.72%。第一回投票時よりも 11%以上投票率が増加した。

● 欧州安全保障協力機構／民主制度・人権事務所(OSCE/ODIHR)による中間報告書

- 欧州安全保障協力機構／民主制度・人権事務所(OSCE/ODIHR)は、5月18日に実施されたルーマニア大統領選挙(決選投票)に関する国際選挙監視団報告書を発表したところ要約は以下の通り。
- 選挙は平穏に実施され、集会・結社の自由は概ね守られた。候補者間の直接討論の欠如(1回のみ)、中傷的な言説、偏った報道、不透明な選挙資金、SNS上での不正操作により有権者が十分な情報を得て判断する能力が損なわれた。
- 選挙準備は専門的かつ期限内に実施されたが、透明性に欠け、選挙管理の会議が非公開等の課題あり。
- 5月4日(第1回投票日)－8日(決選投票選挙活動期間前日)の間は選挙活動・資金・報道に関する明確な法的規定が存在せず、政治活動の監視や透明性に課題。
- 投票用紙が透けやすく秘密保持に懸念。
- 選挙活動は主にオンラインで展開。SNS上での偽アカウント使用、誤情報の拡散、選挙関連の違反行為は増加。当局は偽・誤情報の一部に対して否定声明を出したが、全体として対応は不十分。偽情報の削除要請は一部受け入れられたが、

多くの不正行為が放置された。

- 公共放送は比較的公平だったが民間メディアは偏向。法的規制があいまいで、国家視聴覚評議会の対応も遅れがち。
- 第1回投票と決選投票の間の期間には選挙活動資金に関する明確な報告義務がなく不透明。ダン候補は詳細な報告を行ったが、シミオン候補は報告せず。支出上限は第一回投票の50%に設定されたが短期間の選挙活動期間にしては過大との指摘あり。
- 国際選挙監視団は限られた投票所で開票・集計を観察。一部で手続きの不備や不適切な人物（警察官や市長）の立ち会いあり。障害者の投票所アクセスは依然として課題。

● ダン大統領の就任式

- 5月26日、上下両院合同会議において大統領宣誓式が行われ、ダン大統領が就任。
- 同大統領の就任演説の概要は以下の通り。
 - ✧ 短期的には財政赤字解消のための政治安定と財政改革を推進。長期的には行政、経済、医療、教育、司法、環境、文化、社会福祉、外交、モルドバとの関係、在外ルーマニア人支援で包括的改革を推進。
 - ✧ 外交政策は米国との戦略的パートナーシップの強化、NATO・EUとの関係強化、在外ルーマニア人支援、モルドバの欧州統合支援・共同事業拡大。

【政党略称】PSD：社会民主党、PNL：国民自由党、AUR：ルーマニア人統一同盟、UDMR：ハンガリー人民主同盟、USR：ルーマニア救国同盟、POT：青年党、PUSL：社会自由ヒューマニスト党、AFD：右派の力連合

経済

（1）主要経済統計とりまとめ（国家統計局、財務省、ルーマニア中央銀行発表とりまとめ）

● 国家統計局（INS）

	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3
貿易収支（億€）	-234.858	-272.117	-300.549	-333.927	-27.386	-56.169	-84.536
消費者物価指数（%）	4.62	4.67	5.11	5.14	4.95	5.02	4.86
失業率（%）	5.7	5.7	5.6	5.7	5.5	5.6	5.5
平均グロス給与（€）	1,721	1,732	1,775	1,861	1,793	1,797	1,910
平均ネット給与（€）	1,052	1,060	1,084	1,135	1,072	1,076	1,145

● 財務省（MF）

	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3
財政収支（億 lei）	962.369	1094.167	1257.192	1527.174	110.118	302.372	436.372
GDP 比（%）	-5.44	-6.19	-7.12	-8.65	-0.58	-1.58	-2.28

● ルーマニア中央銀行（BNR）

	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3
政策金利（％）	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50
外貨準備高（億€）	657.78	628.41	611.74	621.35	608.37	625.93	619.93
経常収支（億€）	-197.77	-242.10	-263.01	-293.70	-16.46	-48.09	-76.56
前年同期（億€）	-160.63	-184.53	-197.70	-214.91	-14.20	-26.00	-42.01
FDI（億€）	53.62	55.12	58.52	57.30	5.43	10.31	16.72
前年同期（億€）	51.71	59.04	66.11	67.48	11.48	16.60	24.81
前年同期比（％）	+3.69	-6.64	-11.5	-15.08	-52.70	-37.89	-32.60
中長期対外債務（億€）	1388.23	1381.98	1537.34	1544.33	1534.61	1585.05	1568.81
前年末比（％）	+13.7	+13.2	+12.2%	+12.7	-0.6	+2.3	+1.2
短期対外債務（億€）	473.58	481.50	487.20	491.42	484.82	497.82	485.26
前年末比（％）	+2.4	+4.2	+5.4	+6.3	-1.3	-0.2	-2.7

● 消費者物価指数（国家統計局（INS）・ユーロスタット）

	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3
消費者物価指数(%)	4.62	4.67	5.11	5.14	4.95	5.02	4.86
食料品価格(%)	4.72	4.75	5.11	5.09	4.54	4.54	5.10
非食量品価格(%)	3.30	3.45	4.15	4.38	4.60	4.79	3.84
サービス価格(%)	7.88	7.66	7.56	7.10	6.54	6.42	6.99
ユーロ圏平均	1.7	2.0	2.2	2.4	2.5	2.3	2.2
EU27 カ国平均	2.1	2.3	2.5	2.7	2.8	2.7	2.5

● 業種別（前年同期比）（国家統計局（INS）・ユーロスタット）

	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3
鉱工業							
工業生産高（％）	-3.6	-0.9	-1.3	-3.4	2.1	-3.2	-7.6
工業売上高(名目)（％）	6.0	8.2	5.2	8.6	-0.4	-1.9	3.6
工業製品物価指数（％）	-1.7	-3.3	-0.4	-0.7	-0.1	4.0	3.3
新規工業受注高(名目)（％）	3.3	7.9	7.1	7.7	-3.5	-0.2	8.9
小売業							
小売業売上高(除:自動車・バイク)（％）	10.7	10.6	9.2	7.8	3.2	3.3	3.4
自動車・バイク売上高(%)	-1.6	6.3	5.0	-2.8	1.4	0.1	1.6
小売業売上高 ユーロ圏平均(%)	2.9	1.9	1.2	1.9	1.5	2.3	1.5
小売業売上高 EU 平均(%)	2.8	2.1	1.5	2.0	1.6	2.0	1.4
建設業							
工事(%)	3.0	-11.6	-9.3	-14.3	34.1	6.7	3.1

(2) 主要経済関連

● ルーマニア・レイ、5月8日に対ユーロで 5.122 を記録

- 5月6日、ルーマニア・レイは対ユーロで史上初めて5レイ台の基準値を突破した。
- 5月8日、ルーマニア・レイは5月8日までに対ユーロで下落し、中央銀行は公式為替レートを1ユーロ＝5.1222レイとし、5月7日に記録した1ユーロ＝5.0991レイより0.45%、過去3日間で3%安となった。ルーマニア・レイは、5月4日に行われた第1回大統領選挙後の政治的緊張が長引く中、下落傾向が続いた。
- 過去2年間、ユーロ／レイの為替レートは1ユーロ＝4.97レイで安定していた。ルーマニア中央銀行は、コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵略、インフレの膨張など、ここ数年のあらゆる危機にもかかわらず、ユーロ／レイの為替レートを安定させることに成功していた。

- **欧州復興開発銀行（EBRD） 今年のルーマニア経済成長率予測を 1.6%に下方修正**

- 5月13日、EBRDは、2025年のルーマニア経済の成長に関する予測を2月時の1.8%から下方修正し、1.6%とした。なお、2026年の経済成長予測は維持し、2.4%としている。

- **欧州委員会（EC）、ルーマニアの 2025 年経済成長率予測を 2.5%から 1.4%に下方修正**

- 5月19日、ECは、「2025年春季経済予測」の中で、ルーマニアの2025年の経済成長率見通しを、2024年11月時点の2.5%から1.4%に引き下げた。2024年の不振の後、ルーマニア経済は2025年の初めには、特に建設、農業、サービス、輸出見通しの改善により、加速する方向にあったが、米国の関税賦課や国内の政治的・財政的ボラティリティの高まりによって生じた不確実性が、輸出や経済心理、投資や消費を減衰させると予想される旨報告した。この結果、2025年の実質GDP成長率は1.4%と緩やかなものにとどまり、2026年には2.2%まで回復すると予想した。

(3) その他トピックス

- **ルーマニア EU の全農業労働力の 23%、EU の全農場の 3 分の 1**

- 5月7日、インパクト・ハブ・ブカレスト社等は、ルーマニアにはEU内の全農業労働人口の23%（177万人）が集中している旨の調査報告を発表した。同調査によると、農家の90%は5ヘクタール未満で、自給自足的な農業を営んでいる。
- 農業は、GDPへの貢献度が着実に低下し、収益性も低下しているにもかかわらず、ルーマニア経済とEU経済の双方にとって重要なセクターであり続けている。ルーマニアのGDPに対する農業部門の寄与率は、2023年には3.9%、2024年には3.2%であり、EUでは2023年に1.3%であった。地方レベルでは、農業部門は、古い技術、低い生産性、労働力の高齢化、土壌劣化や水不足等の気候リスクの増大といった課題に直面している。

- **横浜ゴムがルーマニアに進出**

- 5月7日、Newsweek ルーマニア語版は、日本のタイヤ大手ヨコハマタイヤが、米国とチェコ共和国の2つのオフロードタイヤ工場を閉鎖し、ルーマニアのドロベタ・トゥルヌ・セヴェリンに進出する旨報道した。現地法人 Yokohama TWS Romania SRL を通じて、ドロベタ・トゥルヌ・セヴェリンにある鋳業、土木機械、大型輸送車両向けのオフロードタイヤ工場 Euro Tyres Manufacturing SRL を付加価値税を除く3,500万ドルで買収した。ドロベタにあるオフロードタイヤ工場は1978年に設立され、1983年に日本製の生産設備で竣工した。革命後、工場は Rotras と改称され、民営化された。Euro Tyres Manufacturing SRL は約7年間の債務超過の後、2025年1月に破産し、清算人により競売にかけられていた。

- **ダチア自動車、2024 年は 2023 年を 7%上回る約 280 億レイの売上高**

- 5月23日、ダチア自動車は、自動車生産台数が4%減少したにもかかわらず、売上高は2023年比6.9%増の278.1億ロンで2024年を終えた旨発表した。純利益は7.6%増の5.69億レイとなり、投資額は10億レイを超えた。好業績を支えたのは、平均車両価格の上昇と、総売上高の80%以上を占める輸出の増加であった。ルーマニア全体の商品輸出に5.3%貢献しているダチアは、依然として国内有数の輸出企業である。

- **ルーマニア人、アジアの旅行先への関心高まる**

- 5月29日、レヴォルトは第1回レヴォルト・グローバル・ツーリズム・レポートにおいて、ルーマニア人は休暇を計画する際、伝統的なヨーロッパの目的地から離れ、アジアの目的地への関心を高めている旨発表した。同レポートは、レポリュートが進出している24カ国のユーザーの支出に基づいており、5500万人の顧客が海外旅行の際にどこでお金を使うかを明らかにしたものである。
- 2024年、ドイツはルーマニア人ユーザーの全支出の10%を占め、アルバニアは42%も消費額が増加した一方で、他の欧州諸国での支出は英国（-8%）、ギリシャ（-6%）、ハンガリー（-3%）と減少傾向。北米でも米国（-11%）、カナダ（-16%）で減少した。その一方で、日本での支出は特に花見シーズンや日本食の体験の魅力に牽引され52%増加した。その他にも、タイ（+12%）、フィリピン（+18%）、ベトナム（+15%）、マレーシア（+10%）とアジアの人氣が顕著であった。

外政

(1) ダン大統領、黒海・バルカン安全保障フォーラム 2025 での対談で外交政策・対外政策について発言

- 5 月 22 日、ダン次期大統領（当時）は、ブカレストで開催された黒海・バルカン安全保障フォーラム 2025 における対談で、ルーマニアの外交政策の方向性について以下のとおり発言した。
 - 外交政策
 - ◇ ルーマニアは親 NATO、親 EU、米国との戦略的パートナーシップといった親欧米的な方向性を継続することは間違いない。これはルーマニアが非常によく定義した方向であるものの、これまでルーマニアは十分に積極的ではなかった。ルーマニアは信頼性を持たなければならない。ルーマニアは内部を強化し、EU や NATO でより積極的に活動しなければならない。
 - 対米政策
 - ◇ ルーマニアは米国と戦略的パートナーシップを結んでおり、これを継続・拡大したいと考えている。米国側も同様の望みを持っていると信じている。米政権とメッセージのやり取りを行い、昨年の選挙無効についてより明確にする必要があったが、米側のオープンさを目の当たりにし、両国のパートナーシップは継続し拡大すると確信している。
 - 対ウクライナ政策
 - ◇ ルーマニアはロシアによるウクライナ侵略に反対の立場をとった。国際条約によって 80 年前に確立された安定を破った侵略国家が存在するという国際政治的背景を考えれば、それは正しいアプローチだった。ルーマニアは、自国とモルドバ共和国の安全を念頭にウクライナを支援することを決定した。ルーマニアはウクライナが友好国であることを望んでいる。ウクライナへの支援は継続する。もちろん、できるだけ早く和平や停戦を実現したい。それまでは、ルーマニアは欧州の一員として、ウクライナが交渉する和平がウクライナ自身にとって可能な限り妥当なものとなるよう、必要なあらゆる論拠を与えなければならない。ウクライナの復興への参加にも大いに前向きである。
 - 対モルドバ政策
 - ◇ モルドバ共和国は、ルーマニアとのエネルギーパートナーシップにより、ロシアへのエネルギー依存度を低下させた。主な目的は 2030 年までに EU に加盟することである。ルーマニアは外交的、運営上の支援を提供する。モルドバとのエネルギー連結性と輸送網を拡大したい。ルーマニアのモルドバ共和国への投資に対する保証基金を設立する必要がある。両国間の税関にかかる時間を短縮し、ルーマニア国籍を取得するのに必要な時間を短縮し、文化交流を増やす必要がある。

防衛・安全保障

(1) 事案・イベント等

- ルーマニア空軍、ガザからの退避輸送任務を実施
 - 5 月 6 日から 7 日にかけて、ルーマニア空軍の C-27J 輸送機がガザ地区における治安情勢の悪化を受けて、ルーマニア市民 9 名とその家族をルーマニアへ輸送するため、ブカレストーアンマン（ヨルダン・ハシェミット王国）ーブカレストのルートで退避輸送任務を実施した。
 - 5 月 14 日にも、ルーマニア空軍の C-27J 輸送機が、イスラエルのラモン空港から、12 人の小児患者と 21 人の親族（パレスチナ市民）の退避輸送任務を実施した。
- 国防省主催 WPS 会議の実施
 - 5 月 8 日、国防省が主催する WPS（女性、平和、安全保障）会議が開催され、女性のリーダーシップの促進と意思決定プロセスへの女性の参加の拡大を目的としたルーマニアの「SHE FOR ROMANIA」の取り組みが強調された。
 - なお、2024 年末時点で、ルーマニア国防省の女性職員は全体の 23%、女性軍人は全体の 13%を占めており、階級別では将校が 22%、将校と下士官が 17%、専門職軍人が 9%である。

- **射撃場周辺で民間人が不発弾の誤爆発により軽傷**

- 5月18日、スマルダン射撃場周辺において、男性民間人が不発弾の誤発火により右手に軽傷を負った。
- 男性は現場で応急処置を受け、その後ガラツィ県立病院に搬送され、現在、安定した状態にある。

- **黒海バルカン安全保障フォーラムの開催**

- 5月23日から24日にかけて、シンクタンク「新戦略センター」主催、国防省後援により、第9回黒海バルカン安全保障フォーラムが開催され、日本からは国際問題研究所の吉田所長がパネリストとして参加した。

- **ロシアによる無人機攻撃 ルーマニア領空の通過は無し**

- 5月30日、ルーマニア国防省は、同日未明にロシア軍がルーマニアとの国境付近のウクライナに対して、民間港湾インフラに対する一連の無人機攻撃を行った旨発表した。
- ルーマニア軍のレーダーシステムは、30日午前0時30分頃、ウクライナの空域で、ルーマニアの国境近くのウクライナのイズマイル港に向かう一連の目標物を検出し、午前1時24分に、トゥルチャ県北部の住民に対する警報がROアラートにより発出された。
- レーダー航跡のデータからは、目標物はルーマニア上空への侵入は確認しておらず、これまでのところ、ロシア軍による攻撃で使われた無人機の一部の残骸がルーマニアの領土に偶発的に落下した可能性に関する情報やデータはない。

(2) 訓練・演習等

- **NATO サイバー演習「LOCKED SHIELD 2025」への参加**

- 5月5日から9日にかけて、ルーマニア国防省は、NATO サイバー演習「LOCKED SHIELD 2025」に参加した。
- ルーマニアからの参加は今回で5回目で、ポルトガルおよびモルドバと合同チームを編成し、国防、公安、国家安全保障システム、国家サイバーセキュリティ局、学術機関、およびサイバーセキュリティ分野の専門知識を有する民間企業から、合計約260名が参加した。

- **NATO 多国籍演習「DACIAN SPRING 2025 (DASP25)」の実施**

- 5月5日から23日の間、NATO 加盟10か国（ベルギー、ブルガリア、フランス、イタリア、ルクセンブルク、北マケドニア、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スペイン）が、ルーマニア領内で開催される多国籍演習「DACIAN SPRING 2025 (DASP 25)」に参加し、本演習で、ベルギーの機動大隊が初めてルーマニア領土に展開した。

(3) 主要な会談・会合等

- **国防大臣、オランダ国防大臣と会談**

- 5月7日、トゥルヴァル国防大臣は、第86空軍基地で、オランダのブレケルマンス国防大臣と会談。
- F-16 戦闘機の整備訓練プログラムを追加し、同基地の欧州 F-16 訓練センターの活動を将来的に拡大することが合意された。

- **国防大臣、モルドバ国防大臣と会談**

- 5月23日、トゥルヴァル国防大臣はモルドバのノサティ国防大臣と会談し、地域の安全保障状況と両国間の防衛協力の強化について議論するとともに、モルドバの軍改革支援および欧州統合への支援継続を表明、EUFOR ALTHEA ミッションへのモルドバ軍の参加を歓迎した。

- **国防大臣、ブルガリア国防大臣と会談**

- 5月23日、トゥルヴァル国防大臣はブルガリアのザリアノフ国防大臣と会談し、黒海地域の安全保障や NATO 内での協力強化について意見交換を行うとともに、両国間の防衛協力の深化と地域の安定に向けた取り組みを確認した。

- **国防大臣、トルコ国防副大臣と会談**

- 5月23日、トゥルヴァル国防大臣はトルコのアルパイ国防副大臣と会談し、黒海地域の安全保障と両国間の防衛協力について協議するとともに、地域の安定と NATO 東翼の強化に向けた協力を確認した。

- **国防大臣、ベルギー国防大臣と会談**

- 5月23日、トゥルヴァル国防大臣は第71空軍基地にて、ベルギーのフランケン国防大臣と会談し、両者は二国間の良好な関係を強調し、ルーマニア軍の能力の近代化と強化、および両国軍の相互運用性と訓練の向上に貢献する共同プロジェクトを模索する用意があることを表明した。

- (4) **部隊・人員・装備品・防衛産業など**

- **2機のF-16戦闘機が新たに到着**

- 5月22日、第71空軍基地（クンピア・トゥルジー）に2機のF-16戦闘機がノルウェーから到着し、2機は今後、第57空軍基地（ミハイル・コガルニチュアーヌ）の571戦闘航空隊に配備される予定。
- これまでにノルウェーからの32機のF-16戦闘機のうち、18機が到着しており、そのうち16機は第71空軍基地の48戦闘飛行隊に、2機は第57空軍基地（ミハイル・コガルニチュアーヌ）の571戦闘航空隊に配備されている。

我が国との関係

- (1) **二国間関係全般**

- **片江大使による「ルーマニア・日本協力センター」開所式への参加**

- 5月9日、片江大使は、ボック・クルージュ・ナポカ市長、フォルナ・クルージュ県知事、澤田NTT会長、メッツ・NTTデータ・ルーマニア社長、ヒンツェア・バベシュ・ボイ大学政治行政学部長、マルキシシュ・ルーマニア合気会会長らとともに、NTTデータ・ルーマニアで開催された「ルーマニア・日本協力センター」の開所式に参加した。大使は祝辞の中で、同センターがイノベーション、知的交流や日ルーマニアの共同プロジェクトを促進する拠点として機能し、両国間の協力関係を新たな高みへと導くことへの期待を述べた。



- **岩屋外務大臣によるルーマニア大統領選挙後のメッセージ**

- 5月20日、岩屋外務大臣は記者会見で、ルーマニア大統領選挙について質問され、「今後、正式に大統領に就任する見込みの当選されたダン候補との間を含め、引き続き、価値や原則を共有するパートナーであるルーマニアとの間で、二国間関係の強化、国際場裡における連携強化について取り組んでいきたいと考えております」と発言した。



- **片江大使による書道展オープニングへの出席**

- 5月22日、片江大使は、国立農民博物館で開催されたロディカ・フレンツィウ・バベシュ・ボイ大学東アジア言語文学科長による書道の個展「Caligrafia japoneză în memoria clipei」のオープニングに出席。式典では、片江大使とゲオルギウ博物館副館長が祝辞を述べた後、フレンツィウ学科長から、自身の書道にかける思いやその意義が語られた。また、日本人ピアニストの萩原千代氏が、仏具のお鈴を組み合わせた楽器である千尊鐘（せんぞんしょう）の演奏を披露。

